

第2章 次世代育成の「めざす姿」と 現状の問題点

次世代育成のめざす姿

1. めざす姿の設定

前期計画で設定された「1. 優しく思いやりのある子どもに育つ」「2. 親と子がともに育ち合い、健康で豊かな人生を送る」「3. 子どもを地域（ふるさと）の宝として大切にみんなで育てる」の3つを継続して次世代育成のめざす姿としました。

子育て中の親グループの グループワークから

こんな子どもに育ってほしい

自立した子 明るい子
まわりの人と仲良くできる子
社会適応ができる子 夢を持った子
自分を肯定的に考えることができる子

こんな育児がしたい

ルールをきめて楽しみながら育児
個性を活かした育児
子どもと一緒に育児を楽しむ
子どもの才能を伸ばす

親としてこんな生活を送りたい

ひとりの人間として生きる
健康が保てる

大切なこと

人間同士としての親子関係を作る
子どもは家族の宝であると同時に地域の
大事な財産
子どもに対して地域が何をなし得るか
という視点が大切
子どもを中心とした考え方

現代の子育てをめぐって

育児のあり方が変わってきている
テレビゲームなどの遊び方の問題
少子化で子どもと親同士のネットワークが作
りにくい
ネットワークづくりのための場がほしい
塾通いなどの問題
遊び場の確保
不審者の存在
安全で遊びやすい公園
公共施設へのアクセスや公共の場所の安全

子どもたちが自分で工夫して遊びを企画する
と言った姿が昔は見られたが、今は大人が用意
して子どもを遊ばせるような風潮がある

親（たち）はこれができる

しつけ
必要なこと（もの）を子どもに与える
子どもを守る
同世代の子を持つ親へ働きかけ仲間になる
地域の子どものために教える（挨拶、危険を防ぐ）
安全な環境を自分たちで保つ
父親が育児に参加する

前期計画で設定された次世代育成の「めざす姿」を継続



1. 優しく思いやりのある子どもに育つ
2. 親と子がともに育ち合い、健康で豊かな人生を送る
3. 子どもを地域（ふるさと）の宝として大切にみんなで育てる

山梨市の次世代育成に関する現状の問題点

1. 実務担当者からみた問題点

・学校養護教諭では

朝ご飯は食べてくるが、パンやごはんの単品だけを食べる子が増えている。
一人だけで食べる子が増えている。
中学生の生活習慣の乱れがある。
アレルギー疾患が増えている。
むし歯は減少しているが、歯肉炎は増えている。

・保育園では

集団生活になじめない子、気になる子が増えている。
家庭や地域の子育て力が十分引き出されていない。
将来の教育的な面も考慮した保育が不十分である。
未満児（0～2歳）の途中入園希望者が増えている。
園児の低年齢化による施設等、保育環境の確保と整備が困難である。

・児童福祉担当者では

民間の力が十分活かされていない。
児童虐待防止と適切な対応が十分でない。
地域での親育ち（親育て）が十分でない。
放課後児童クラブの子どもたちが、安心して生活できる専用室がない。

・ピッコロ療育センターでは

幼稚園・保育園等に通園しながらの通所が増えてきたため、園行事が優先され定期的な通所ができない。
仕事を持つ親が多くなってきたため、定期的な通所の確保ができていない。
ピッコロ療育センターに対する偏見がまだ強い。

・児童館では

市内の子育て支援団体とのネットワークが不十分である。
学童の行事に参加するが、小学生の自由来館が少ない。
高富地域にしか児童館がない。
ハーバスの停留所がないためバスで児童館を利用したい人には不便である。
父子の来館が少ない。

・生涯学習担当者では

青少年の健全育成と非行防止にむけた施策が不十分である。
乳幼児教室や保育園・小学校・中学校の家庭教育学級等での親への教育が不十分である。

・栄養士では

小中学生では、男女に差はみられないが、学年があがるごとに肥満の割合は減少傾向にあり、やせの割合は増加傾向にある。
乳幼児期からの規則正しい生活習慣ができていない子がいる。

・保健師では

子どもの事を一生懸命考えているが、どう関わってよいかわからない母親がいる。
育てにくい子が増えている。(おちつき、人見知り、かんしゃくなど)
サービスの適正な使い方ができてない。
子育てをしていくうえで気持ちにゆとりがない。
子ども優先の子育てから親優先の子育てをする人が増えている。

子育て力が十分引き出されていない親に対し、子育て支援にたずさわる機関が支えることで、健全育成をはかる必要があります。

また、地域とのつながりが希薄になりがちであるので、地域での親育ても考えていく必要があります。

2. 統計からみた問題点

- ・ 人口は、平成 17 年 31,298 人、平成 21 年 30,198 人であり、5 年間で 1,100 人少なくなっている。
- ・ 世帯数は、平成 17 年 9,838 世帯で、平成 21 年は 10,107 世帯で 269 世帯増えており、単身世帯、核家族化が進んでいると思われる。
- ・ 出生数は、平成 15 年 211 人、出生率 6.9 で、平成 20 年 190 人、出生率 6.4 と減少傾向が続いている。合計特殊出生率は、全国、県に比べ低い水準となっており、少子化が進んでいる(平成 20 年山口市 1.22、全国 1.37、県 1.35)
地域別にみると、年少人口は、5 年間で高富地域では 5.7%、伊自良地域では 8.5%、美山地域では 13.1%の減少となっている。
- ・ 婚姻率は、平成 15 年 3.9、平成 20 年 4.0 で変化はあまりない。全国では 5.8、県では 5.3 となっており、国や県に比べ低い水準となっている。
- ・ 平成 20 年の妊娠届出数は、220 件で、12 週未満の届出は 174 件(78.6%)である。届出が遅いと、妊娠中の健康管理が遅れる等問題があり、早期の届出を励行する必要がある。妊婦健康診査の受診状況は良好である。
- ・ 子どもの心身の発達や言語に心配のある子に対し、発達支援相談を実施しているが、増加傾向にある。また、発達支援教室に参加する親子も増加している。
- ・ 予防接種の接種率は、平成 20 年度で B C G は 95.4%、ポリオ 71.3%、三種混合 69.1%、麻しん風しん 86.4%となっており、未接種者への勧奨が重要である。日本脳炎は、積極的な勧奨を見合わせるにより、8.4%と低くなっている。

少子化の進行は、どの地域にもあり、特に美山地域の減少が大きくなっています。
婚姻率は、依然低い状況にあり、少子化が進む状況にあります。

詳細は末尾資料「主要統計」を参照ください。

3. 山県市子育て支援に関する意向調査からみた問題点

- ・ 子どもが病気になったとき、母親が休む割合が最も多く、今後利用したい保育サービスは、「病児・病後児保育」が一番多くなっている。
- ・ 一時預かりを今後利用したいと思っている母親は、多くなっている。
- ・ 平成21年度就学予定児童の放課後児童クラブの利用意向は、42%ある。
- ・ 小学生児童が実際に放課後児童クラブを利用している割合は、8%となっている。
- ・ 長期休業期間の放課後児童クラブの希望開始時間で、早朝からの希望は20%ある。
- ・ ファミリーサポートセンターを利用している人は、1%と極めて少ない。
- ・ 子育て支援サービスについて知っている割合は多いが、利用したことがある割合は、低くなっており利用までに結びついていない人が、2～3割ある。
- ・ 「子育てに自信が持てないことがある」親が、「ごくまれにある」を含め80%程度ある。
- ・ 「子育てがいやになることがある」親が、「ごくまれにある」を含め55%程度ある。
- ・ 子育てで負担に感じることは、「自分の自由な時間が持てない」ことや「子育てで、出費がかさむ」、「身体の疲れがとれない」が多くなっている。
- ・ 子育てに関して悩んでいること、気になることは、「教育に関すること」や「友だちづきあいなど対人関係に関すること」、「食事や栄養に関すること」が多い。
- ・ 「親同士の交流ができていない」と思っている人が、36%ある。

意向調査からは、育児に関する諸問題が指摘されています。特に女性の就業率上昇に伴う保育サービスのニーズが高まっています。また、子育てを負担に感じている人が多く、サービスを利用することによる負担が軽減できることを周知していく必要があります。

詳細は、末尾資料「山県市子育て支援に関する意向調査の概要」を参照ください。

4. 親グループのグループワークで話された現状から

親グループのグループワークで現状の問題点として話されたものをまとめました。

母子保健

- ・ 乳幼児相談は、気軽に話しに行ける場だと思っているが、当日行くと「何を希望してきたか」と聞かれるとひいてしまう。もう、帰らないといけなのかなという雰囲気になる。
- ・ 以前は、自分の子どものことを知ってもらっていたので、「大きくなったね。」などと声をかけてもらって身近に感じた。地域的なものを大事にしてほしい。
- ・ 健診が、高富になったので遠くになりサービスが遠くを感じる。きめ細やかなサービスをしてほしい。
- ・ 乳幼児相談という名称は、かたい感じがする。かたいと行きづらい。
- ・ 最近、病院へ行くと身長・体重は測ってもらえるので、乳幼児相談へは行ったことがない。
- ・ 健診で、何か問題があると必要以上に指摘されるように感じる。

子育て支援のサポート体制

- ・ 園庭開放を利用する人が1人、2人しかきていない。
- ・ 児童館もいろいろなことをやっている。土日にリトミックなどいろいろな行事を取り入れているが、参加者が少ない。
- ・ サポート体制はできているが、サービスがわかりにくく使いにくい。そのため参加する人がすくないのではないか。
- ・ 不登校などの心のケアをしてくれる専門家が少ないのではないか。教育を受ける権利は絶対的である。
- ・ 放課後児童クラブの利用で、1人だと使えない。
- ・ 事業がいろいろ用意されているが、周知ができていない。
- ・ 母親が孤立しないようにする。
- ・ 母親同士の交流の場合は、紹介するだけでなく一歩踏み込んだものにしてほしい。

子育て上の不安、問題

- ・ 子育てに自信がない。どうしたら自信がもてる親になるのか
- ・ 手をかけず、目をかけるようにしてきたが、子どもは自信がないようで、自分の考えで行動できない。
- ・ 子どもが大きくなると、母親と接する時間が少なくなる。
- ・ 同居していると、ランチなど気軽に行けない。核家族の人は、自分のペースなので自由である。
- ・ 中学になると親との交流がなくなってしまう。
- ・ 子どもが大きくなると、話をしなくなる。
- ・ 少子化で子どもが少なくなり、まわりから手をかけられすぎてしまう。
- ・ 自分の思いどおりになってきた子が、集団の中でうまくかわれない。
- ・ 集団の中でおっくうにならず、協調性をもってほしい。
- ・ 昔は、子ども同士で遊んだが、今の子は、子ども社会を経験していない。
- ・ 子ども中心という考え方をくずしてはいけない。
- ・ 親や先生を敬わず、対等である。
- ・ 子どもの才能をどうしたら伸ばしていけるか、どのようにみつけていったらよいか。
- ・ 体を動かすことを保育園や学校でやってほしい。

父親のかかわり

- ・ 子どものことは、母親まかせの人がいる。
- ・ 父親は、給料を運ぶだけでいいのか。子どもが反抗するうちはまだよいが、そのうち無視するようになる。
- ・ 父親が堂々と参加できるものがあるといい。

母親の育児姿勢

- ・ サークルでは、子どもと一緒に楽しめるものをしてほしい。
- ・ 最近は、託児をしてもらい、子どもと離れることを望む母親がいる。母親のリフレッシュの場も必要であるが。

公 園

- ・ 安全で遊びやすい公園がほしい。げんき広場は、雨が降った後くちゃぐちゃしている。ブランコも危険なためか撤去されてしまった。
- ・ げんきはうすまでの道が危険なため、気楽にいかせられない。
- ・ ハーバスに乗って施設へ行くことができるとよい。
- ・ 公園が、誰の目にも届かないような場所にあるため危険で利用しにくい。
- ・ 学校には入れないため、遊び場の確保ができるとよい。

地 域

- ・ 自治会に入っている、入っていないで、サービスに差が出ることもある。
- ・ 広報は自治会に入っていないと届かない。
- ・ 自治会によっては、自治会に入っていないと子ども会に参加できない。
- ・ 若い世代をひきつけ、いかに定住させるか。

5．子育て支援ネットワーク協議会で出された現状と課題

《現 状》

- ・ それぞれの課題を共有し、関係機関との連携が図れるようになった。
- ・ 母親自身、目的を持って参加するようになり、参加する母親の姿勢が変わってきた。
- ・ 参加している保護者から自主サークルができ、活動するようになった。
- ・ 乳幼児教室に参加していた保護者が、ミルキーママボランティア（託児ボランティア）として、参加してくれるようになった。援助される側から支援をする側へ。
- ・ 託児ボランティアの意識が高まりつつある。

《今後の課題》

- ・ 乳幼児教室に参加する人はいいが、参加しない人へのフォローが必要である。子ども家庭課、乳幼児教室、児童館等の連携により支援できるとよい。
- ・ 働く母親が増えてきて、祖父母が育児している場合もあり、祖父母も気軽に参加できる教室づくり。
- ・ 母を主体とした教室が多いので、異世代を対象にしたものを取り入れていくとよい。
- ・ 仕事と子育ての両立支援が必要。たとえば、働くママの子育てセミナーなど。
- ・ 生活の軸を子どもに合わせることが出来る親づくり。
（親の生活習慣に子どもを合わせてしまうなど、親本位で行動してしまうことが多い親が、子どもの生活習慣に合わせられるように啓発する。）
- ・ 関係機関が情報を共有し、更なる連携を行う。実際、子育てしている親グループと連携して、親の意見を聞きたい。
- ・ 子育ての情報、パンフレットがあるとよい。

現状分析のまとめ

- ・ 少子化が進行している。特に美山地域の少子化が進んでいる。
- ・ 父親の子育てへのかかわりに問題がある。
- ・ 仕事と子育ての両立は大変であると感じている保護者が多い。仕事と子育ての両立支援が必要である。
- ・ 子どもが病気になったとき、母親が休む割合が最も多く、今後利用したい保育サービスは、「病児・病後児」が一番多くなっている。
- ・ 一時預かりは、今後利用したいと思っている母親が多くなっている。
- ・ 子どもの事を一生懸命考えているが、どう関わってよいかわからない母親がいる。
- ・ 子育てに自信が持てない親がある。
- ・ 子ども優先の子育てから親優先の子育てをする人が増えている。
- ・ 親に対する情報提供など周知方法に問題がある。
- ・ 親の育児力は低下しており、親への教育の充実をはかる。親育ちを推進する。
- ・ 自分の思いどおりになってきた子が、集団の中でうまく関われない。気になる子の増加。
- ・ 教室などに参加する人はよいが、参加しない人へのフォローが必要である。
- ・ 朝食はとるが、一人だけで食べる子や単品だけを食べてくる子が増えている。

前期計画の「めざす姿」と山県市の現状の問題点から後期計画を作成しました。

次世代育成支援行動計画の骨組み

